

そらんぽへ行こう

固 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

プラネタリウムで 天文^{がく}楽しませんか？

皆さんは「重力波」という言葉を聞いたことがありますか。重力波は、宇宙でとても大きな出来事が起きたときに、時空がさざ波のように揺れる現象です。アインシュタインがその存在を提唱して以来、長く確認されていませんでしたが、2015年、アメリカの重力波望遠鏡「LIGO」が初めて重力波を捉えて存在が証明され、宇宙の謎を探る新しい天文学が始まりました。

重力波を観測することで、光や電波では分からないブラックホール同士の合体や、中性子星同士の衝突など、これまで確かめにくか



KAGRAのアームトンネル (東京大学宇宙線研究所提供)

った現象が次々に明らかになっています。日本でも大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」が建設され、海外の研究機関と協力して観測が進められています。

そこで、プラネタリウムでは3月21日(土)に東京大学宇宙線研究所の牛場崇文^{たかのみ}さんを招き、「重力波望遠鏡で解き明かす宇宙の謎」をテーマに、重力波で見えてきた宇宙の新しい姿と、その謎に迫るKAGRAについてお話しいただきます。普段は見えない宇宙の揺れから、宇宙の謎に迫ってみませんか。

文化財さんぽ

固 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

今に伝わる地域の祈り 河原田天王祭

河原田地区の疫病退散の行事である、「河原田天王祭」をご存じでしょうか。河原田天王祭は江戸時代後期に始まったとされており、当時流行した天然痘を鎮めるため、須賀神社に赤く染めた団子を供えたことが起源といわれています。

須賀神社は「ダンゴ宮」とも称され、寛永14(1637)年の創建とみられています。明治42(1909)年にほかの神社と合祀され河原田神社となり、現在は貝塚町に須賀神社跡が残っています。須賀神社の主祭神は、厄災から人々を守る神として知られる「建速須佐之男



河原田天王祭の山車

命」で、この神は仏教の「牛頭天王^{ごずてんのう}」と同一視され、疫病から身を守る神として篤く信仰されてきました。

こうした信仰を今に伝えるのが「河原田天王祭」です。現在では、毎年7月の第2土曜日に行われ、赤い提灯^{ちようちん}で飾られた梵天^{ぼんてん}を山車に立て、太鼓や鉦を打ち鳴らし、疫病退散を願いながら町内を練り歩きます。

須賀神社跡や河原田神社のある同地区を訪れ、先人の祈りに心を寄せてみてはいかがでしょうか。